恐ろしいシンナー乱用から青少年を守ろう

青少年のシンナー、ボンド乱用の風潮が、いぜんとして全国的にまん延しています。シンナー、ボンドは第三の麻薬といわれますが、むしろ麻薬より恐ろしい中毒症状をおこすといわれます。

これを常習的に吸入しますと強いめいてい状態になり、自制心がなくなりますが、最もおそろしいのは理性や判断力を支配する中枢神経がおかされることで、このため粗暴な犯罪を犯すという例が多いと言われます。また乱用によって肉体がおかされ、廃人同様になるとか死亡するという事件がつぎつぎに起っています。

次の世代をになう若い人たちが一時の好奇心から、一生をあやまる道に踏みこんでしまうというのは、社会全体の大きな損失です。

わたしたちのまわりからこの危険な風潮をなくすよう、家庭でも学校でも、そして社会の人たちみんなが協力しあっていきたいものです。

放飼いの犬は捕獲

県が取締条例制定

飼犬に人がかまれたり、家畜がかみ殺されたり、農作物が荒されたり、甚しい例は幼児がかみ殺されて社会問題となっています。このような被害を未然に防ぐため、県では犬取締条例を制定して一月一日から施行し、取しまりを強化することになりました。

主な内容

㊀犬は必らずつないで飼わなければならない。㊁不要の犬は保健所長に届け出てその指示に従わなければならない。㊂飼い犬が人をかんだときは、保健所に届け出なければならない。

㊃知事は、犬の飼い主に対し、危害を防ぐため犬に口輪をかけるなど必要な処置を命ずることがある。㊄つながれていない犬は捕かくする。㊅知事は、やむを得ない場合は、野犬はもちろん、放し飼いの犬も薬殺することがある。㊆悪質な犬の飼い主はやむを得ず罰することがある。

この条例は犬を飼う人に、正しい犬の飼い方を知って真の愛犬家となってもらい、明るい安心して住める千葉県にするためのものです。

ふる里の話題

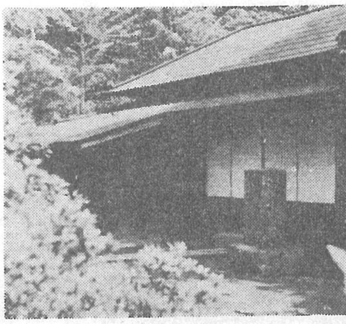
大原幽学と横芝町 ㈠

「世界で一番早く協同組合を作り、幕末の疲弊し切った農村を振興させた二宮尊徳と併称される人、」と香取郡干潟町大原幽学保存館発行の案内書の一節である。天保六年（一八三五年）下総国長部村（干潟町）名主遠藤氏の懇望で此の地に草鞋を脱ぎ、安政五年（一八五八年）に幕府の圧政によって自刃して果てるまで、幽学の教と道義は天性の人格と自ら備えた深い蘊蓄により数多くの門弟を育成し遺教は土地改良となり、生活改善となって村落の隅々まで住民の繁栄をもたらした。

幽学は尾張家の家老大道寺氏の二男として生れ、名は才次郎、号は静斉、幽学等と称した。幽学の徳は今の世に及んでも絶えず、日蓮、伊能忠敬に次いで県の偉人と仰がれている。

さて、この大原幽学は長部村に往来の折、また在住中、再三ならず横芝に杖を止めていることが東町栗山川畔の老舗の主人というよりは俳人として知られる土屋栗水氏によって明らかにされた。

同氏の研究は、主として幽学の著書「性学日誌」「口まめ草」「陸奥徒々草」等によっているということであるが、同氏は「此々に載せたものは筆者が適宜取捨したもので全文ではない」と添え書きして次のような稿を寄せられたので、そのまま掲載した。



尚、ここに載せるのは筆者が適当に取捨してあるので全文ではない故御了承を乞う。

（○印は原文のまま）

○天保三年五月二十一日東金蔦や平蔵方に泊り屋形村海保忠左衛門といへる人と合宿なして右主に伴はれて逗留しけり。二十八日出立、忠左衛門主に案内せられ清水村不動院に至り逗留、九月二日出立。（右の海保忠左衛門と蔦や平蔵方にて同宿した事が奇縁となり、後しばしば屋形の地に足を向けたものと思われる。この忠左衛門とは、現在史談会々員である筆者の友人海保忠氏の先代であることも偶然とはいえ興味がつきない。）

○芝山仁王に詣づ。中台茶店に休みて

霜除を取ってやりたき
　小春哉、　南陽拝、

（この句は、幽学の友人殿部田村の南陽道人と同伴していた折と伺える。中台村といえば筆者の少年時代にあの辺りの藁葺屋根の茶店にくず餅等という看板を見かけたが、あんな風情の中を散策していたものと思われる。）

○九日出立して屋形村に行く道すがらにて

近道は気遣い多し飛ぶ蛙、
踏みそうにしたる蛙の声のよさ、

○十二日屋形村を出立して一宮に至る。

○天保七年五月十六日　屋形村西照寺に至る。二十日海保惣兵衛殿に至り逗留し終日性論談、尤もこの内二十八日は谷右衛門に至る。

○天保八年二月四日　屋形より清水村不動院泊り、六日出立して飯倉村椎名氏泊り、七日南陽氏来り対面、九日出立して屋形村西照寺に逗留して十七日出立。

三月朔日東雲に出立して辰中刻行徳に着舟して曾我野明石屋に至り泊る。明る二日屋形村西照寺泊り逗留、五日清水不動院泊り、明る七日西照寺に来る。此の辺当時米両二斗三升づつとかや、田螺、蓬の類？？でなし（二字不明）

○四月真理谷に至り、翌二日松崎村紋左衛門方に至る。明る三日本納笹屋泊り、四日東金蔦や泊り、明る五日屋形村忠左衛門殿方に至る、翌六日清水不動院に至り、七日屋形西照寺、翌八日海保惣兵衛殿に至り、十日出立して一宮治兵衛殿に至る、十三日出立して松崎村山越古蔵殿に至る逗留数日、性学を講談す。

（右のように各地を訪づれては性理学を講じ普及につとめていることがわかる。）

（未完）

写真は香取郡干潟町大原幽学保存館構内にある幽学の住居（国指定文化財）

×　×　×　×